

■今月の特選句

2016年8月

夏はほら夏目雅子の野球帽

山本 賜

夏→夏目雅子→瀬戸内少年野球団のイメージの展開が明快である。言葉が滑り出る。それが滑稽の「滑」。まさに俳諧の連歌の原点なんだね。

一樹ごとけふ貸切の蟬しぐれ

小林英昭

「一樹ごと」に蟬の樹が何本も立っている存在感。狂おしいほどに鳴きつもの。しかし、明日はもう鳴かぬかも知れぬ。「けふ（今日）」に哀しさも潜む。

黒星を背負ひ気楽な天道虫

麻生やよひ

相撲では黒星が続くと大変だが、天道虫は黒星を背負っていても気楽。七つ星天道虫は、負け越しの可能性大だが無頓着だなあ。

四十肩とも五十肩とも扇風機

稲葉純子

扇風機が古くなって、回転部の取り付け部分に「ガタ」が来たのだろう。作者も四十肩なのか。「同情」の気持があればこそその擬人化の句。

秋暑しポストの喘ぐ口二つ

氏家頼一

俳句は対象に「何を感じたのか」を書くもので、この句では「秋暑し」と「喘ぐ口」にポイントがある。それが読者の共感を得ることに。

地球一周せむとてでで虫旅立てる

小泉花子

単なる写生に終わらず、想像力を働かせて興味深い世界を繰り広げて見せてくれた。「本当のように思える嘘」を描いてこそ文芸。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|---|------|
| 羅や人戸感はず仕草して
・・・スケスケルック今も健在 | 田村米生 |
| ・・・すぶりなんだかそぶりなんだか
おぞましき黴と言へどもブルーチーズ | 金澤 健 |
| 心太字がすき更に味も好き
・・・太い心で音立て啜れ | 久松久子 |
| ・・・雷さんが苦手な大工
油汗うまく生かすやあめんぼう | 川島智子 |
| 本心で揺れていますかねこじゃらし
・・・嫉妬（じえらしー）の心かたちに出でて | 有富洋二 |
| ・・・花の枝くぐる女人の仕種
取り合わせ苦吟となりぬ竹婦人 | 山下正純 |
| コーヒーゼリー地殻破壊のやうな涼
・・・ひと掬いして銀のスcoop | 鈴木和枝 |
| ・・・久しぶりなる夫婦善哉
水着脱ぐところ太陽にも見せず | 廣田弘子 |

ユーロ圏覆ひ尽せり入道雲
・・・暗雲のかげポンドに映り

伊藤洋二

コーヒーゼリー地殻破壊のやうな涼
・・・ひと掬いして銀のスcoop

藤森荘吉

出世魚はまち止まりで定年に
・・・久しぶりなる夫婦善哉

青木輝子

水着脱ぐところ太陽にも見せず
・・・隠しカメラに盗み撮られる

飯塚ひろし

ユーロ圏覆ひ尽せり入道雲
・・・暗雲のかげポンドに映り

田中早苗

■今月の滑稽句

- へそくつてこつそり頂く鰻の日
【佳作】 ビヤガーデンポテトチップの風に飛び
青木輝子
青木輝子
- 歯刷子(ブラシ)のさまにも似たり麦の穂は
夾雑を鋏で除き梅雨そなへ
【佳作】 大青田いつぱいに浮く刺し子かな
青山桂一
青山桂一
青山桂一
- 扇風機梱包されてをりにけり
【佳作】 早起きのあと朝寝せり奥の方
出くはして我も蚯蚓も驚きぬ
赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安
- 【佳作】 天然も化粧をしたる夏の虹
涙とも汗とも友と抱き合ふ
梅雨靄(もや)の展望台は不要なり
秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子
- 暮れ泥む刻持て余し月見草
【佳作】 のるときは眠気も覚めるハンモック
麻生やよひ
麻生やよひ
- 【佳作】 水鉄砲かまへ路地うら探検隊
フーテンを決め込んでゐる水馬
有富洋二
有富洋二
- 小休止ばかりして居る登山かな
【佳作】 はらからの目の色変るメロンかな
飯塚ひろし
飯塚ひろし
- いいとこで犬の声聞く昼寝ざめ
【佳作】 宇宙に連れてゆきたや竹婦人
スーパーのエヤコンで鳴る風鈴よ
井口夏子
井口夏子
井口夏子
- 【佳作】 うらめしや柳の下にも監視カメラ
梅雨の入り女房どのにもヒゲが生え
池田亮二
池田亮二
- 死ぬほどのことはないさと黴のパン
【佳作】 見られると窓締切つて風呂の黴
黴の生えた嘸また出て聞かされて
伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦

- 【佳作】 飼ひ猫と端居取り合ふ恐妻家
外孫に習ふ天満の祭り締め
伊藤洋二
伊藤洋二
- 【佳作】 何となく部屋に蚊とゐる夕べかな
扇風機畳の縁を踏んでをり
紫陽花のどれも満開晴ればかり
稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一
- 雲の峰もくもく野心の形して
【佳作】 噴水の頂点墜落を恐れつつ
稲葉純子
稲葉純子
- 打ちし蚊に採血されて結果なし
梅雨の日や百均の傘盗られけり
【佳作】 七夕に老後安泰書き連ぬ
井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ
- 集団下校の列の静か炎天下
【佳作】 おねだりの子燕ママを戸惑はせ
カタツムリの殻をほしいとナメクジリ
上山美穂
上山美穂
上山美穂
- 軽装に在す仏の残暑かな
青邨の紅花活けて舞ふおはん
氏家頼一
氏家頼一
- 【佳作】 さりげないことも作為やパナマ帽
夏瘦の方程式に反比例
池の面を占領したるアサザかな
梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子
- 遺言は一本ノと祭好き
父の日の達者なにより子孝行
【佳作】 西日濃しまた初めから話し出す
越前春生
越前春生
越前春生
- 【佳作】 猛暑日の睨みが緩む仁王像
夏草にパワーを貰う倦怠期
ひたすらに独りぼっちな案山子かな
岡野 満
岡野 満
岡野 満
- 【佳作】 早々と育毛チューブ夏瘦せて
祝日の無い六月を祝しけり
梅雨嫌い何の因果か梅雨生まれ
小川鈍太
小川鈍太
小川鈍太

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | テロと言う大見出しあり梅雨の朝
昼寝覚め氏名連呼の遠ざかる
薔の花しかと見つめて咳き込みぬ | 奥脇弘久
奥脇弘久
奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 票田のお目当てにされ青林檎
見られても平気になりし網戸かな
夜の部も心配無用大昼寝 | 加川すすむ
加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 | 窓硝子あるく吸盤雨蛙
七月の風に雀躍擲翁
竹の子の墮胎よろしく搔き出さる | 笠 政人
笠 政人
笠 政人 |
| 【佳作】 | 立ち飲みをすれば叱るや冷蔵庫
ゴーヤ鈴成り絵に描いておかなくちや
雷神や寺の大杉よじ登る | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 | あぢさみに動揺の色早梅雨
空梅雨や晴耕雨読のおぞましく | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 | 病葉の人を惑はす朱色かな
梅雨晴の公園まるで鬼ごっこ | 川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 | 蛇皮を通すべからずシュレッダー
足腰をまず植えてより田植歌
誕生日の笑顔しわくちや薔薇の花 | 久我正明
久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 落し文書き直したき一文字
道教へついて行つたら帰れない | 小泉花子
小泉花子 |
| 【佳作】 | むかで老いバリヤフリーの家に越す
団子虫なにかと言へばすぐすねる | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 蚊に刺され憎さのまさる痒みかな
見届けて花火を帰る巾着切
幽霊の屏風が化けて売られけり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | ストリッパーの如はらり脱ぐ竹の皮
茄子を植う指図光一(ぴかいち)妻のみて
羊のママ手込めの如く毛刈せらる | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 裏方に徹し父の日父上座
蟻地獄崩して寺の跡を継ぐ
ダイエット効果満点更衣 | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 悪者にされるのら犬夏の宵
紫陽花のリトマス色の雨長し | 鈴木洋子
鈴木洋子 |
| 【佳作】 | 堅い腕組 いくつか案留めている
蚊を仕留めた紫蘇もんだ手 | 鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 風薫りヨーグルト買い一人食べ
汗流し熟練してき芽が伸びる
夏帽子カバンの中に水筒を | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 遅しく生きて偏屈蚊帳の外
土砂降りも雷神様のお小水
パソコンで行動知られ生身魂 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | 七夕の短冊に良縁願ふとは
じゃんけんで勝って揚羽に生まれたの
顔見ても母国わからぬ水母かな | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 【佳作】 | をんな風呂を舞ひ続ける梅雨の蝶
ひやとひの猥談したる花あやめ
己の直感の正しく浮葉かな | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | へつぱり腰祭足袋のみいと白く
ネズミ捕りに手招き受けて木下闇 | 田中早苗
田中早苗 |

- | | | |
|------|----------------------------------|----------------|
| 【佳作】 | 麻服の皺を気にして顔に皺
梅雨湿り振れども出ない神籤串 | 田村米生
田村米生 |
| | 七夕の願いに欲のきりもなし
ビキニ着てTシャツ羽織り水遊び | 津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | 婆様は荷物番なり海の家 | 津田このみ |
| | 汗ぬぐひ着いた我が家は熱地獄
風鈴や大の字になる相撲取り | 土屋泰山
土屋泰山 |
| 【佳作】 | ひそひそと額を寄せる木下闇 | 土屋泰山 |
| | 小心の余裕綽綽サングラス | 都吐夢 |
| 【佳作】 | 泥中のリング謎呼ぶ溝浚へ
黴の香や古書商ひの鼻眼鏡 | 都吐夢
都吐夢 |
| | 体温を軽くオーバー炎暑かな | 中井 勇 |
| 【佳作】 | インターホンすこしお待ちを裸なり
大雷雨隣の犬も泣きにけり | 中井 勇
中井 勇 |
| | この鯨地震起こしの張本人
雪隠を訪ふ夢に覚め明易し | 新島里子
新島里子 |
| 【佳作】 | 団扇もて叩くばかりといふ恋も | 新島里子 |
| | 呼び覚ます恋のふるきず明易し
炎昼を影に遅れてついて行く | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 人の世に這ひ蹲つて熱帯夜 | 西をさむ |
| | クールビズネクタイ筆筒でうらめしや
LED色の見本は黄金虫 | 花岡直樹
花岡直樹 |
| 【佳作】 | 大差なしビールの腹の二三段 | 花岡直樹 |
| | 虫払ブックカバーを欠かせぬ本
昼寝覚口にはしたく無き吉夢 | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 完熟の無花果あわて一気食ひ | 原田 曄 |

- | | |
|-----------------------|-------|
| 熊の仔に間違えられし狸の子 | ひがし愛 |
| 【佳作】 小判草一束干して小金持 | ひがし愛 |
| 百獣の王も敵はず蟻の群 | ひがし愛 |
| 愛犬のここ掘れわんわん潮干狩 | 久松久子 |
| 【佳作】 余り苗老人ホームまた一つ | 久松久子 |
| 捨苗の一致団結真四角に | 日根野聖子 |
| 粋がつてゐるわけじやないサングラス | 日根野聖子 |
| 山彦の声夏山に吸ひ取られ | 日根野聖子 |
| 夕焼や城山雲の意に添うて | 廣田弘子 |
| 【佳作】 余白なき自分史照らす春灯 | 廣田弘子 |
| 出郷のニートの酷暑パンの耳 | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 宿題の左脳へせはし渋団扇 | 藤岡蒼樹 |
| 男梅雨梯子の洒落に惚気落つ | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 五月病越えて鋼のメンタルへ | 藤森荘吉 |
| 軽く生く本格的な夏までは | 藤森荘吉 |
| 八つ塚の地藏水田に逆立ちの | 藤原セツ子 |
| 万華鏡日傘の上の木漏れ日は | 藤原セツ子 |
| 【佳作】 マヨネーズかけて食べたき若葉かな | 藤原セツ子 |
| 梅雨晴や水不足です雨不足 | 細川岩男 |
| 炎天に足も何やらもつれ気味 | 細川岩男 |
| 【佳作】 懐が土用鰻にちよい緩む | 細川岩男 |
| 【佳作】 青蚊帳の中に昭和や大の字に | 本門明男 |
| 渋団扇パタパタさせて胡坐かな | 本門明男 |
| 明滅は恋のシグナル恋蛍 | 本門明男 |
| カサブランカ活けて桃源郷となる | 松井寿子 |
| 夏草に猫顔を出しお出迎え | 松井寿子 |
| 【佳作】 蝉鳴くや今日の曇りに不満げに | 松井寿子 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | わたくしを干しております梅雨晴間
父の日の父を演じねばならず
まくなぎを我に移しておんな去る | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| | 老鶯の男湯ばかりにしきり鳴く
源泉湯蟻も訛りも入りくる | 三橋百笑
三橋百笑 |
| 【佳作】 | 老鶯や藪に鳴けども谷渡り | 三橋百笑 |
| | 幸せの彩のとりどり額の花 | 南とんぼ |
| 【佳作】 | どこまでも上昇思考振り花
ビールの泡消えてしまった御挨拶 | 南とんぼ
南とんぼ |
| | 白南風や自在な未来消えぬ過去
不動とは墓の構へと覚えたり | 百千草
百千草 |
| 【佳作】 | 茅の輪抜け善男善女なり吾も | 百千草 |
| | ゴーグルは水の中でのサングラス
朝顔のくちどめできぬねじりかな | 森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | 体ごとミットを目指す親燕 | 森岡香代子 |
| | すすり泣くことに疲れて枇杷すする
DNAの情報ぎつしり枇杷の種 | 八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 | 水鉄砲だけで戦ふ無鉄砲 | 八木 健 |
| | みなくともよきものそれはごきぶりぞ | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 | そよ風の風の素顔は素風かな
我武者羅に唯我独尊生身魂 | 八洲忙閑
八洲忙閑 |
| | 存分に飛沫散らかす水遊び | 八塚一青 |
| 【佳作】 | 夏負や子どもの頃は勝てたのに
焼き鳥の屋台尻目に鴨涼し | 八塚一青
八塚一青 |
| | かさぶたの勲章膝に運動会
公園の噴水暇をつぶしけり | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 蠅打の外すときには外さねば | 柳 紅生 |
| | 猫の爪腕に深傷半夏生
遺言は問はれ生還青田風 | 柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 夏休みスピード自転車あつ！ひやり | 柳澤京子 |

- | | |
|----------------------|-------|
| 人センサー防犯蛙飼ふ我が家 | 山下正純 |
| 【佳作】 筋金の光走らすとかげの子 | 山下正純 |
| 子猫くはへてビルの谷間に雨宿り | 山本けい子 |
| 先達の父行に入る山開 | 山本けい子 |
| 【佳作】 真夏日や夫との会話噛み合はぬ | 山本けい子 |
| 【佳作】 日盛りやご近所さんが向こうから | 山本 賜 |
| 夏帽子押さへて携帯とり落す | 山本 賜 |
| 帰省子の派手はでルック干してあり | 横山喜三郎 |
| 父の日の父は小さくなつてをり | 横山喜三郎 |
| 【佳作】 無気力に守られてゐる炎暑かな | 横山喜三郎 |
| 寸鉄を帯びずなでしこ夏の陣 | 吉原瑞雲 |
| 百万遍ぐちきかされて麦湯かな | 吉原瑞雲 |
| 【佳作】 田草取雑魚の逃げ道知りつくし | 吉原瑞雲 |